

# 技 が輝く

日本の伝統文化の一つである和傘は、かつては庶民の暮らしになくてはならないものでした。今ではなかなか見ることができない和傘作りですが、大分県の北部に位置する中津市では、城下町の風情とともに和傘工芸の伝統が今に残されています。



軒紙貼り作業

## 和傘作りのはじまり

中津和傘の歴史は江戸時代に遡ります。和傘の原料である竹や和紙、柿渋などが地元で調達できることから、藩が特産品として推奨したことがはじまりとされています。幕末には、武士の内職として更に和傘制作は広がっていきました。

昭和初期には、約七十軒もの和傘屋が存在した中津でしたが、洋傘の普及とともに全国の和傘屋と同様に衰退、遂には、九州で唯一となった中津の和傘屋も平成十五年に途絶えてしまいました。

## 伝統の復活

その後、大切な伝統の消滅に危機感を覚えた今吉次郎さんは、有志と共に和傘工房「朱夏」を平成十七年に立ち上げます。

しかし、一旦途絶えてしまったもののシンボルの復活までにはさまざまな困難が待ち受けていました。技術を継承できる職人がいなかったのです。そこで、今吉さんは、自ら傘をばらし、傘の仕組みを独学で研究、骨組みから和縛り、飾りの刺繍まで八十工程にも及ぶ制作技術の腕を磨いていきました。



中津和傘(日傘)

大分県

# 中津和傘

たゆまぬ技の研究により、中津和傘は現在、四人の職人の手で、新たな進化を遂げ始めています。竹と和紙が織り成す繊細で優美な制作技術を用いて和傘あんどんやランプシェードを発売。また、洋柄和紙を取り入れるなど、現在の生活スタイルにあった商品作りを進めています。

「地域の伝統を守りながら、新たな和傘の出番を生

## 子骨の刺繍飾り



み出し、まちの活性化につなげた。今吉さんを始め職人の方々の郷土を思う気持ちと中津和傘への夢と情熱はつきまません。

お問い合わせ

和傘工房 朱夏

TEL ○九九九―二三―一八二〇

FAX ○九九九―三三―一八二〇

住所 〒八七一―〇〇六六

大分県中津市鷹匠町九〇一一

HP

[http://mitene.x0.com/wagasa-](http://mitene.x0.com/wagasa-syuka/)

[syuka/](http://mitene.x0.com/wagasa-syuka/)